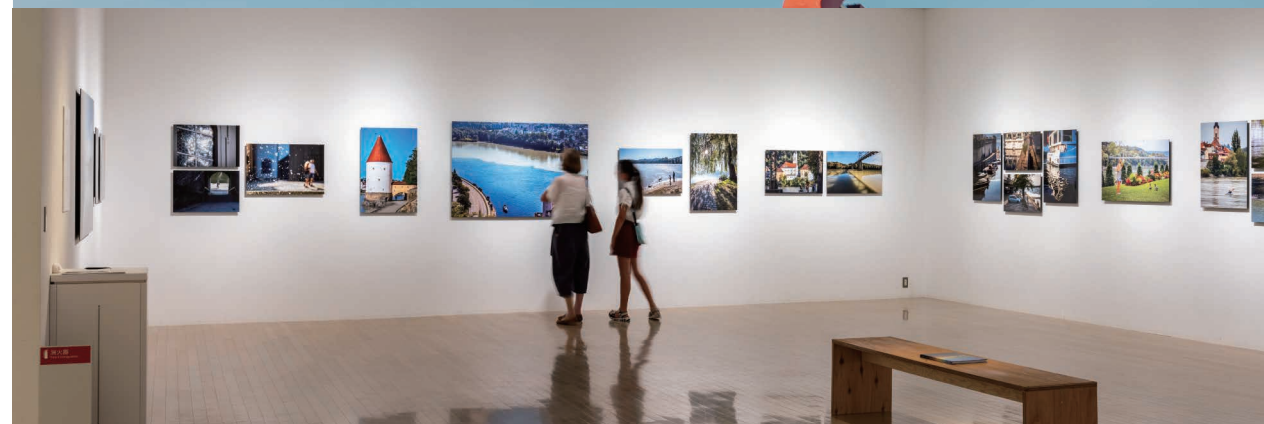


Akita University of Art
Research and Outreach Programs



秋田公立美術大学 社会連携事業事例集 2026

発行：秋田公立美術大学
デザイン：木村 優希 (むすぶ企画室)
写真：草薨 裕、伊藤 靖史、中田 大介、船山 哲郎ほか
制作：NPO法人アーツセンターあきた

※ 乱丁・落丁誌はお取替えいたします。
※ 本誌内容の無断転記、転載、複写はご遠慮ください。
※ 本誌データは2026年6月現在の情報です。あらかじめご了承ください。

秋田公立美術大学は社会の大きな変動に呼応し、 古い概念にとらわれることなく **新しい芸術領域の創造に挑戦する** 大学です。

不確実で複雑な時代。予測できない未来に対して、広い視野をもってイメージをふくらませ、発想力や表現する力によって新たな価値を創造していくことの重要性が高まっています。秋田公立美術大学は、教員らの専門領域に由来する多様な社会連携事業の実践を通じ、大学の「知」を地域に還元することにとどまらず、大学の枠を超えて、秋田がもつ「知と技」の醸成を目指しています。

1. 多様な専門領域の教員らが協働し、 予想を超える価値の創造に挑戦

特定の分野・領域に限定せず、多様な専門性を備えた教員らが協働することで、新しい価値の創造に挑戦します。

秋田公立美術大学には、アーティストやデザイナー、建築家として国内外で活躍する教員が多数在籍し、実社会とつながるプロジェクト型の研究・教育活動を実践しています。

アーツ&ルーツ専攻

地域の歴史的な文化資源（ルーツ）の調査・研究を通して、その再評価の中から新たな芸術表現を探索する。

ビジュアルアーツ専攻

現代美術の新しい方向性を探り、様々な素材や媒体を通して現代的な表現を展開する。

コミュニケーションデザイン専攻

多様なメディアを活用したビジュアルコミュニケーションを学び、効果的なデザインやアートディレクションを可能にする。

景観デザイン専攻

様々な表現領域の制作活動から、社会変革を促す「景観」を創造する。

ものづくりデザイン専攻

秋田の文化資源を背景に、人と人との豊かな関係を築くものづくりを提案する。

美術教育センター

基礎教育センター

キャリアセンター

大学院複合芸術研究科

秋田公立美術大学

協働1

伴走2

発信3

2. アートやデザイン、まちづくりに精通した 専門のコーディネーターが伴走

秋田公立美術大学が設立したNPO法人アーツセンターあきたが、相談の対応や進捗管理を行います。



3. 多様なメディアを通じて積極的に情報発信

プロジェクトの過程や成果を、ウェブサイトやSNS、マスメディアを通じて積極的に情報発信することで、プロジェクトの認知や理解を飛躍的に高めます。

秋田公立美術大学は、アートやデザイン、まちづくり、ものづくりの視点や思考法、技術を活かしながら、地域の企業や研究機関、自治体と連携し、地域の価値創造に貢献する様々なプロジェクトに取り組んでいます。



秋田市在住の写真家である草薙准教授の展示



製造現場の作業工程や技術を見学する学生たち

CASE 01

姉妹都市を祝う写真展

秋田市・パッサウ市姉妹都市
提携40周年記念写真展実施事業

秋田市から本学の草薙裕准教授、パッサウ市からクラウド・ディッテ氏が互いの都市を訪問して撮影した写真42点ずつを展覧会にて発表しました。本学の石川昌教授が展覧会設計および写真集のデザインに携わっています。その他、広報・オープニングセレモニー開催等の業務を行い、両市の姉妹都市としての関係を県内外に広めました。

きっかけ・動機

秋田市とドイツ・パッサウ市との姉妹都市提携40周年を記念して、秋田市から写真展の開催と写真集の作成についてご相談いただきました。

〔委託者〕 秋田市

〔期間〕 2024年6月～2024年8月

〔担当教員〕 石川 昌 教授（ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、
環境グラフィックス） [コミュニケーションデザイン](#)
草薙 裕 准教授（写真） [コミュニケーションデザイン](#)



パッサウ市在住の写真家ディッテ氏の展示



オープニングセレモニーで挨拶するディッテ氏



写真集「Flow/Glow」

CASE 02

地元で働く魅力発見

「もしも鹿角市に勤めたら」プロジェクト

本学の教員・学生が1週間、鹿角市に滞在し、鹿角工業振興会所属の7つの製造業者でリサーチを実施しました。学部1年から大学院生までの6名の学生が企業職員へのインタビューや職場環境の調査を行い、若者の目線から、鹿角市で働き、暮らすことの魅力や価値について探りました。合宿最終日には企業代表との意見交換会を行い、美術大学ならではのアイデアや意見をまとめた報告書を作成しました。

きっかけ・動機

鹿角市産業活力課から、同市の産業分野の雇用開発に繋がるプログラムについてのご相談をいただきました。

〔委託者〕 鹿角工業振興会

〔期間〕 2025年5月～2026年1月

〔担当教員〕 柚木 恵介准教授（プロトタイピング、Material Lab.、ワークショップ） [ものづくりデザイン](#)
萩原 健一准教授（映像、メディアアート）*当時 [ビジュアルアーツ](#)

〔助手〕 中田大介 [ものづくりデザイン](#)

〔訪問企業一覧〕 株式会社柳澤鉄工所、株式会社青山精工、株式会社浅利佐助商店、有限会社森谷製作所、小伸製作所、昭和第一産業株式会社、ジョイタム株式会社



鹿角市内の製造業者をリサーチする教員と学生



地域雇用の現状や課題、魅力について話を伺う



報告会で意見交換



地域資源として流れ山に着目するまち歩き

CASE 03

アートで探る地域資源

にかほ市×秋田公立美術大学協働プロジェクト
「ジオカルチャー研究プロジェクト」

異なる専門性を持つ研究者とアーティストが多数参加し「アクティビティー領域」「伝統・伝承領域」「地域資源領域」の3つのプロジェクトを並行して実施しました。野外アクティビティーの探索や歴史・民俗の観察・考察、鳥海山の山体崩壊でできた「流れ山」の活用研究などを展開。研究の過程をまとめたタブロイド紙《手長足長》を刊行し、デザイン性の高い媒体に県外からも注目が集まり波及効果を挙げました。

きっかけ・動機

にかほ市と本学が2020年に結んだ連携協定を通じ、鳥海山麓に広がる自然や伝統をはじめ、同市に存在する多様な地域資源の発掘を試みるプロジェクトがスタートしました。

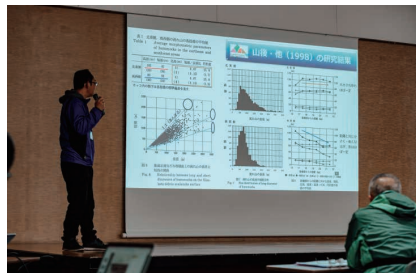
〔委託者〕 にかほ市 〔期間〕 2021年4月～2025年3月

〔担当教員〕 石倉 敏明 教授（芸術人類学、神話学） **アーツ&ルーツ**
尾花 賢一 准教授（絵画、立体造形） **ビジュアルアーツ**
萩原 健一 准教授（映像、メディアアート）* **ビジュアルアーツ**
井上 宗則 准教授（都市・建築デザイン） **景観デザイン**
石渡 雄士 准教授（都市史、建築史） **景観デザイン**

〔助手〕 【にかほでそとね】櫻井隆平*、大平真子、青木邦仁*、中田日菜子、岩城佑実、佐藤若菜*
【流れ山の地域資源化】石田駿太【野生巡り】居村匠、大東忍*【研究シーズ発掘】櫻井隆平*、折田千秋、村上直樹 *：当時



象潟の盆小屋行事(撮影:石倉敏明)



まち歩きとトークイベント「いっぽにはにかほながれ散歩」



研究レポート《手長足長》

CASE 04

地域に馴染む補修計画

新屋横断歩道橋補修に伴う色彩デザインプロジェクト

地域の人と一緒に歩道橋の色彩をデザインするプロジェクトとして、地元の小中学生やスポーツチーム、周辺のお店の方など新屋地域に関わる12組27名が参加。1年間をかけて毎月1日の正午に歩道橋に上がり、お話を聞きながらその時間の「空の色」を定点観測し、塗装に活かしました。

きっかけ・動機

秋田地域振興局が実施する歩道橋の補修事業にあたり、地域の人々にとって意味のあるデザインにしたいと本学にご相談をいただきました。

〔委託者〕 秋田地域振興局 〔期間〕 2022年6月～2024年4月

〔担当教員〕 楠木 恵介 准教授（プロタイピング、Material Lab、ワークショップ） **ものづくりデザイン** 〔助手〕 中田 大介 **ものづくりデザイン**



色見本を手に、空の色を観察する参加者



“空色”に塗り替えられた新屋横断歩道橋



新たな歩道橋のお披露目の日、地域の人々が集まる

CASE 05

社屋のアート空間創出

CNA×秋田公立美術大学

CNA社屋や外構でアートを発信するプロジェクト「BIYONG SCAPÉ」ではすべり台モニュメントや壁画、ポケットパークの造成、染色作品などを通じて社屋の外観を彩っています。また1階のギャラリー「BIYONG POINT」では展覧会事業を実施しています。

きっかけ・動機

2014年に本学とCNAが包括的連携協定を結んだことをきっかけに「BIYONG SCAPÉ」や「BIYONG POINT」での展覧会事業など複数の取り組みが始まりました。

〔委託者〕 株式会社秋田ケーブルテレビ(CNA) 〔期間〕 2017年12月～

〔担当教員〕 今中 隆介 教授（インテリアデザイン、ファニチャーデザイン、プロダクトデザイン） **ものづくりデザイン**
森 香織 准教授（本友禅染） **ものづくりデザイン** 井上 宗則 准教授（都市・建築デザイン） **景観デザイン**



すべり台型モニュメントのある外構



染色作品がたなびく



BIYONG POINT(撮影:越中谷優一)

地域に広がる跡地活用

能代北高跡地利活用可能性検討業務

秋田県から能代市に譲与された能代北高跡地。18,000m²以上もの広大な土地をどう活かせるかを調査しました。2021年度はワークショップで活用アイデアを話し合い、2022～23年度は中心市街地の今後のあり方とセットで考え、実証実験を計画・実施して様々な可能性を検討しました。取り組みの様子をまとめたニューズレター「これから、ここから。」も発行しました。

きっかけ・動機

能代北高跡地の利活用について、周辺地域とのつながりのある活用方法の検討を見据えた相談がありました。調査やワークショップを経て思考継続型プロジェクトを提案し、実証実験へと展開しました。

〔委託者〕 能代市 〔期間〕 2020年6月～2024年3月

〔担当教員〕 小杉 栄次郎 教授（建築・都市設計の理論と実践）景観デザイン 井上 宗則 准教授（都市・建築デザイン）景観デザイン

〔助手〕 船山 哲郎※当時 景観デザイン



上空から望む能代北高跡地



実証実験プロジェクト第2弾「北高跡地で展望してみる」



プロジェクトの背景や経過を冊子やニューズレターにまとめて発行

新製品開発で魅力発信

柳澤鉄工所×秋田公立美術大学新製品開発プロジェクト

鹿角市の鉄工企業である柳澤鉄工所との共同開発プロジェクト。2024年度プロダクトデザインを専門とするチームが合宿を行い、鉄工所のプロの技術を体験してオリジナルデザインの試作品を作成。2025年度には製品のブラッシュアップと、共同の取り組みを発信する広報プロジェクトを行いました。

きっかけ・動機

広報媒体の制作、BtoCの商品開発協力等のご相談をいただき、視察を経て、教員・助手・学生による開発プロジェクトに取り組みました。

〔委託者〕 株式会社柳澤鉄工所 〔期間〕 2024年9月～2026年3月

〔担当教員〕 柚木 恵介 准教授（プロトタイプング、Material Lab、ワークショップ）ものづくりデザイン 〔助手〕 中田 大介 ものづくりデザイン



サポテンスタンド(デザイン:藤澤穂香)



アクセサリーホルダー(デザイン:津川沙千)



傘立て(デザイン:柚木恵介)

愛されキャラの新展開

日南工業オリジナルキャラクター活用研究

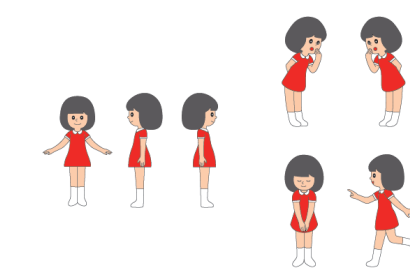
にかほ市の味噌・醤油メーカー日南工業のキャラクターとして長年親しまれている「キッコーナンのナン子ちゃん」の活用研究。2024年度には「ダブルダイヤモンド」という手法でキャラクターの性格を定義。2025年度には学生がキャラクターの新ポーズを作成。社員の方々と学生がワークショップを重ね、長年愛されたナン子ちゃんの新しい姿を生み出しました。

きっかけ・動機

ナン子ちゃんの活用と展開についてのご相談をいただき、工場見学や商品研究を通じて理解を深めながらデザインを専門とする教員と学生が活用研究を行いました。

〔委託者〕 日南工業株式会社 〔期間〕 2024年6月～

〔担当教員〕 石川 昌 教授（ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、環境グラフィックス）コミュニケーションデザイン



新たに作成された様々なポーズのナン子ちゃん



色見本を手に配色を検討する



新たなナン子ちゃんのお披露目となったポップアップショップ

デザイン力で文化継承

ドンパン娘シンボルキャラクター・ロゴ制作活用事業

大仙市中仙地区のドンパン娘のキャラクターとロゴマークをデザインしました。本学の学生と教員がデザインを担当し、地域に長く愛されるよう地域の方々にお話を伺い、イメージを調査。複数の案から検討を重ね完成したデザインには、中仙地域の自然・文化、伝統の要素が散りばめられています。

きっかけ・動機

大仙市中仙地域は民謡ドンパン節発祥の地。ドンパン節、踊り子のドンパン娘の知名度向上と継承につなげるため、キャラクターとロゴマーク制作のご相談をいただきました。

〔委託者〕 大仙市 〔期間〕 2022年5月～2025年3月

〔担当教員〕 石川 昌 教授（ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、環境グラフィックス）コミュニケーションデザイン



キャラクター「桜田まどか」とロゴ



資料を見ながら打ち合わせる教員と学生



道の駅なかせんで実施した桜田まどか紹介展示

広報誌連載で魅力再発見

能代市市制20周年記念事業

写真家と研究者のコラボレーションにより、能代の歴史や風景、文化財と対峙して独自の視点で捉え直し、土地に根ざした〈時間〉に光を当てる試み。プロジェクトは文化財紹介にとどまらず、土地の魅力の〈再発見〉から〈創造〉へと拡張していきました。

きっかけ・動機

能代市市制20周年を記念した事業の企画についてご相談をいただき、能代の宝を取り上げる文化財パンフレットの作成案を出発点に、「広報のしろ」連載と写真集制作へと展開しました。

〔委託者〕 能代市 〔期間〕 2025年5月～2026年3月

〔担当教員〕 井上 宗則 准教授（都市・建築デザイン） 景観デザイン 草薨 裕 准教授（写真） コミュニケーションデザイン



「広報のしろ」特集ページ



フィールドワークの様子



写真集《Echoes of Time》

空き店舗の再活用へ

能代街なか資源再活用プログラム開発研究

かつて本屋であった「旧鴻文堂」を若者の居場所として整備・活用しながら、街の賑わいを創造し、持続可能な地域活性化モデルの構築を目指すプロジェクト。現在、自発的な行為・行動が生まれる高校生の居場所「KOBUNDO」として利用されています。

きっかけ・動機

空き店舗を地域資源として再活用するこの試みは、2019年に能代市から委託を受けて始まりました。現在では本学と合同会社八峰能代沖洋上風力が共同研究として取り組んでいます。

〔委託者〕 2019～2021年度：能代市／2022年度～：共同研究者・合同会社八峰能代沖洋上風力 〔期間〕 2019年6月～

〔担当教員〕 小杉 栄次郎 教授（建築・都市設計の理論と実践） 景観デザイン 井上 宗則 准教授（都市・建築デザイン） 景観デザイン



旧鴻文堂の片付けと商店街



高校生の集いの場となる「KOBUNDO」



改装は高校生が主体となって行われた

美大教員による実践的講座

美術活性化アウトリーチ事業実施業務

県内高校の美術部員や顧問を対象に、デザイン分野における制作技術、指導手法向上のための支援を通じ、文化芸術を担う若手の育成を図るアウトリーチ事業。2025年度はグラフィックデザインや映像デザインに関する講義、ワークショップを実施しました。本学教員の幅広い専門性を活かして文化芸術活動の振興に貢献します。

きっかけ・動機

地元の美大として、県内の文化芸術活動の実情に即したアプローチが可能であるとの期待から本学にご相談をいただきました。

〔委託者〕 ミルハスを核としたにぎわい創出実行委員会（2024年度）、秋田県（2025年度） 〔期間〕 2024年6月～

〔担当教員〕 石川 昌 教授（ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、環境グラフィックス） コミュニケーションデザイン 柚木 恵介 准教授（プロトタイピング、Material Lab.、ワークショップ） ものづくりデザイン



高校生を対象としたアウトリーチ



本学教員によるデザインの理論と実践



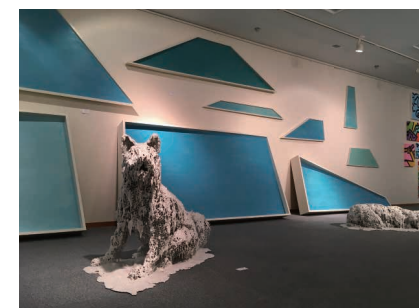
アニメーションを作る参加者

その他のプロジェクト

地域においてアートやデザインがより身近な存在となるよう、公開講座やアートワークショップ、展覧会の開催などにも取り組んでいます。

展覧会

学内外のギャラリースペースや美術館などを用い、本学の研究・教育活動の成果を、展覧会形式で公開しています。



公開講座

教員による研究発表や外部講師を招いた公開講座などを不定期で開催しています。



アートワークショップ

主に小中高生を対象に、創造力や表現力を養う本学オリジナルのアートワークショップやデッサンスクールを開催しています。



秋田公立美術大学の社会連携事業では、多様な専門性を持つ教員が協働して新たな価値の創造に取り組みます。ここでは、これまで多数の社会連携事業に関わってきた2名へのインタビューを通じて、実際に業務に関わる教員の思いをご紹介します。



「美術活性化アウトリーチ実施業務」(2024年度～)では、県内高校の美術部員や顧問を対象に映像デザインやグラフィックデザインの講義と実践を行っています。その背景には美術とデザインの違いがあまり認知されておらず、高校の教員がデザイン教育に難しさを感じているという現状がありました。初心者や初学者にどうやって教えるかというのは、教員の力が試される、やりがいのある部分だと思います。一番大切にしているのは、まず楽しさを感じてもらうことと、物事の見方の幅を広げる課題を出すことです。アウトリーチ事業では、初学者に向けてデザインと美術の違いや、デザイナーとしての心構えについて、柚木恵介准教授といっしょに考えながら伝えるようにしています。

「秋田市・パッサウ市姉妹都市提携40周年記念写真展実施事業」(2024年度)では秋田市から本学の草薙裕准教授、ドイツ・パッサウ市からクラウド・ディッテンさんが双方の街を訪れて写真を撮影しました。私は写真展の空間や写真集の制作を担当しました。写真集については、作家である草薙先生自身に写真の並びを組んでいただいたので、共同制作の趣が強かったです。研究室も近かったので、作家としての意向を伺いながら進めやすい環境でした。この大学にはいろいろな領域の先生がいるので、機会があれば他専攻の先生とも関わりながら事業を行っていきたいですね。



高校生に講義を行う石川教授

「日南工業オリジナルキャラクター活用研究」(2024年度～)ではオリジナルキャラクターの活用するにあたって、すぐに何かをデザインするのではなく、「ダブルダイヤモンド」という手法を用いて、まずはキャラクターの性質を探るところから始めました。事業にあたって「こういうものを作りたいです」というお話を持ってきていただけるのはありがたいことですが、それ自体が、知らないうちに流行や常識の影響を受けていることもあるかもしれません。そうした先入観を一度取り外してみると、まったく違うところにアイデアが見つかることもあります。だからこそ、まずはゼロベースでもう一度ヒアリングをして、「本当に求めているのはそれなのか」を一緒に話し合う。それがデザインのやり方なのかなと思っています。社会連携事業での協働を通じて、ただ形をきれいに作るだけではない制作の裏側を知ってもらい、デザインへの理解を深め、その価値を感じてもらいたいと考えています。



日南工業社員と学生のワークショップ

石川 昌 教授 コミュニケーションデザイン

ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、環境グラフィックス

1974年大阪生まれ、デザイン事務所mie ru 代表。ビジュアルデザイナー。秋田公立美術大学コミュニケーションデザイン専攻教授。2001年東京藝術大学大学院修了。同大学にてサロン・ド・ブランタン賞、杜賞受賞。ドイツとイタリアのデザイン事務所を経て、2008年にデザイナーユニット mie ru を設立。サイン計画を含むV.I.開発を主軸に、地方都市におけるインナーブランディングを展開中。湯沢七夕絵どうろうまつり(2021)/秋田公立美術大学開学10周年記念展「美大10年」(2023)のアートディレクションほか。著書にMdN「イラストで学ぶデザインの歴史」(2026)などがある。



大学の社会連携事業において重要なのは、地域の人たちとのつながりをどのように構築していくかだと考えています。「一緒につくる」ということはよく言われますが、実際にはとても難しいことです。単に地元の人と一緒に絵を描いたり、何かを作ったりすればよいということではなく、地域の日常の中に美大としての活動がどう入り込み、組み込まれていくか、そしてその活動がどう続いていくかが重要です。そうしたあり方を模索していくことが、社会連携のあるべき姿ではないかと思っています。

私は、建設コンサルタント会社に勤めていた経験があるため、社会連携事業では大学だからこそできる関わり方とは何かを常に考えています。にかほ市や鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会と連携して進めている「ジオカルチャー研究プロジェクト」(2021年度～)では、これまで注目されてこなかった平沢地区と金浦地区の「流れ山」の調査を行ってきました。開始当初は、それが地域資源として魅力的なのか、研究テーマとしての発展性があるのか、確認はありませんでした。しかし流れ山の一つひとつ調査し、まち歩きイベントを開催し、山焼きといった地域の営みにも参加させてもらうなかで、この土地の地形や歴史には、まだ十分に評価されていない魅力があると強く感じるようになりました。私は、こうした見過ごされてきたものに関心があります。民間企業では、見通しが立ちにくいものに踏み込むことは簡単ではありません。しかし大学であれば、研究としての新規性や探索性を生かしながら、不確かな可能性にチャレンジできる。それが、大学だからこそできる社会連携の一つの形だと考えています。



まち歩きイベントでプロジェクトの背景を解説する井上准教授

例えば、「能代北高跡地利活用可能性検討業務」(2020～2023年度、研究代表：小杉栄次郎)は、大学が地域の課題に関わる可能性を考えるうえで、とても印象的な事業でした。このとき提案した「思考継続型プロジェクト」というのは、目標を定め、その実現に向かって事業を進めるのではなく、跡地のあり方を「考え続ける」過程を重視するプロジェクトでした。答えを出すのではなく、地域の人たちとともに問いを持ち続ける。大学だからこそできたものだと思います。周囲からは、「美大ってこういうこともやるんですね」という声も聞かれました。本学には、様々な専門性を有する教員がいて、それぞれのアプローチで地域の課題を紐解きながら、解決の方向性を探っていくことができます。そのことが十分に伝わっていないことに、少し菌がゆさを感じています。



能代北高跡地に宿泊してみる実証実験

「能代市市制20周年記念事業」(2025年度)で展開した「Echoes of Time」は、地域の文化財の魅力を写真家の視点を通して捉え直すことを狙ったプロジェクトです。面白かったのは、当初予定していなかった広報誌での連載に発展したこと。広報誌は地域に広く配布される媒体であり、多くの人の目に触れる可能性があります。日常の中に入り込むという点で、これまでとは違った社会連携の可能性を示せたのではないかと考えています。

井上 宗則 准教授 景観デザイン

都市・建築デザイン

1980年鹿児島県生まれ。九州芸術工科大学卒業。九州大学大学院博士前期課程修了。東北大学大学院博士後期課程修了。博士(工学)。東北大学助教、秋田公立美術大学助教を経て、2021年より准教授。専門は建築・歴史意匠。民間企業において携わった東日本大震災の復興計画等の実務経験を踏まえ、近年は国内外の集落デザインに関する研究を行っている。また、参加型のデザイン手法の在り方を模索しており、サイン、建築、公園、散策路等の様々な実践的な活動を行っている。

● 連携の流れ

秋田公立美術大学と連携したプロジェクトは、概ね以下の流れで実施しています。連携にご関心をお持ちの場合は、ページ下部のお問合せ先までご連絡ください。

1. 相談

秋田公立美術大学の社会連携事業のコーディネーションを担当する**NPO 法人アーツセンターあきた**にお問合せください。ご相談内容をお伺いし、適切な教員などを紹介し、連携の可能性を探ります。

2. 調査

事業化に向け、美大のリソースを最大限に生かして調査・検討します。

3. 企画提案・お見積もり

ご相談内容を踏まえ、調査・検討の上、プロジェクトの企画提案をさせていただきます。

4. 契約

プロジェクトの予算やスケジュール、体制などを確認し、契約を締結します。

5. 制作・運営

企画に基づき、プロジェクトの制作・運営を進めます。コーディネーターが伴走し、状況変化に柔軟に対応し、プロジェクトの完了までサポートします。

6. 記録・発信

プロジェクトの過程や結果をテキストや写真、動画で取材・記録し、ウェブ等を通じて発信し波及効果を高めます。

7. 納品完了

完了後、ご相談から制作・運営、完了までのプロセスをスタッフ内で振り返ります。お客様からもご意見・ご感想をいただけますとありがたいです。

※プロジェクトにより、掲載している流れと変わる可能性があります。ご了承ください。

● お問合せ先

電話 018-888-8137 メール program@artscenter-akita.jp

NPO法人アーツセンターあきた 〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3 アトリエももさだ内

受付時間 午前9:00～午後5:00／毎週月曜日から金曜日

ウェブ : <https://www.artscenter-akita.jp>



● 教員一覧

アーツ&ルーツ専攻

皆川 嘉博 教授
彫刻、彫塑表現、テラコッタ彫刻

村山 修二郎 教授
絵画、コミュニケーションアート、幼少造形教育

石倉 敏明 教授
芸術人類学、神話学

唐澤 太輔 准教授
哲学、文化人類学

山川 冬樹 准教授
現代美術、身体表現、視聴覚メディア、ハンセン病史

渡辺 篤 助教
現代美術、アートプロジェクト、ひきこもり共創実践

ビジュアルアーツ専攻

岩井 成昭 教授
インスタレーション、アート・プロジェクト、多文化とアート

長沢 桂一 教授
テキスタイル

尾花 賢一 准教授
絵画、立体造形

近藤 健一 准教授
現代美術、キュレーション

櫻井 隆平 助教
彫刻、立体造形

高橋 卓久真 助教
メディア表現、デジタルファブリケーション

村上 由鶴 助教
写真、現代美術、ジェンダー・フェミニズム

美術教育センター

尾澤 勇 教授
美術科教育、工作・工芸科教育、金属工芸（鍛金）による作品制作

毛内 嘉威 教授
道徳教育、教育方法

大関 智子 准教授
日本画、美術教育

奥間 政作 准教授
日本近代美術、沖縄イメージ

菅原 香織 准教授
公共デザイン、景観デザイン

福住 廉 准教授
美術批評、文化研究

ものづくりデザイン専攻

安藤 郁子 教授
陶芸制作、ソーシャルアート

安藤 康裕 教授
現代生活空間におけるクラフト及びジュエリーの提案、制作

今中 隆介 教授
インテリアデザイン、ファニチャーデザイン、プロダクトデザイン

熊谷 晃 教授
蒔絵・螺鈿・変塗り等の加飾技法の研究、乾漆造形による飾箱の制作、漆精製、漆上塗り（一級漆器製造技能士）

小牟禮 尊人 教授
吹きガラス、キルンワーク

瀬沼 健太郎 教授
ガラス、いけ花

山岡 惇 教授
指物技法を用いたクラフト作品制作

森 香織 准教授
本友禪染

柚木 恵介 准教授
プロトタイピング、Material Lab.、ワークショップ

コミュニケーションデザイン専攻

裊鎮爽 教授
情報デザイン、WEBデザイン

飯倉 宏治 教授
情報科学

石川 昌 教授
ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、環境グラフィックス

孔 鎮烈 教授
パッケージデザインの造形表現、商品ブランディング、立体構成

坂本 憲信 教授
グラフィックデザイン

草薨 裕 准教授
写真

坂本 祥世 准教授
漫画、イラスト

卓瑛桓 准教授
映像メディア、ドキュメンタリー、アニメーション、メディアアート、パブリックアート

景観デザイン専攻

岸 健太 教授
アーバンスタディーズ、地域資源マネジメント、東南アジア地域研究

小杉 栄次郎 教授
建築・都市設計の理論と実践

井上 宗則 准教授
都市・建築デザイン

石渡 雄士 准教授
都市史、建築史

田畑 耕太郎 助教
公共施設の発注・計画、住宅政策

基礎教育センター

瀬沼 健太郎 教授
ガラス、いけ花

戸澤 里美 助教
社会教育、多文化共生

キャリアセンター

水田 圭 准教授
統合デザイン、社会実装、情報編集、課題解決、公共広告